

# バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

## Interview ①

立命館大学生命科学部生物工学科（助教）

梶浦 裕之



出身大学・卒業年度：大阪大学工学研究科生命先端工学専攻 2009年 博士課程後期 単位取得後退学，2010年 博士（工学）

博士論文タイトル：シロイヌナズナ*N*-結合型糖鎖修飾に関わる酵素遺伝子の同定と機能解析

### 「現在の仕事について」

#### ◆担当職務

生命科学部の助教としての教育活動，および研究室の運営

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容  
学位取得後，出身研究室のある大阪大学生物工学国際交流センターで2年間ポスドクとして勤務しました。センターでのポスドク時代はカイコを宿主とした物質生産に注目した研究に従事しました。その後，日立造船株式会社に入社し，植物が生産するポリマーの研究と，その事業化に向けた取組みにも従事していました。企業に5年間在籍した後，現在の立命館大学の職に就いています。

#### ◆そこでのやりがい

ポスドク時代，研究対象がそれまでの植物から昆虫に変わったことで，新しい手法や分析が新鮮に感じ，日々充実感を得るとともにスキルアップも果たせました。企業に在籍していた頃は，テーマ設定後は自由に研究を行えたのですが，同時に“責任”というものを常に感じていました。その責任感の重要性を今学生達に伝えています。

#### ◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

自分の成長もさることながら，学生の皆さんが少しずつ成長していくところを感じるときです。「先生，できたっ！」と笑顔でデータを持ってくる瞬間，表情には出ませんが，心の中では相当喜んでいます。

#### ◆現在の就職を決めた理由

一度きりの人生，チャンスを逃さず色々なことに挑戦，何よりも自分の力を試したいと思いました。「今までで自分に一番自信をもち，輝いていた時代はいつだろうか？」そう考えた時，もう一度輝きを取り戻すため，大学で研究をしたいと考え転職しました。

#### ◆将来設計（描けるキャリアパス）

職位にこだわりはありませんが，PIになり自分のラボを持ちたいです。そのラボから次の世代を担う研究者を輩出したいです。

#### ◆挑戦したいと思っていること

さまざまな手法・視点・思考で研究を進めるため，国内外にこだわらず，色んな分野で活躍されている先生方とコラボレーションしたいです。まずは，その先生方に認めていただけるだけの実力をつけなければいけないと考えています。

#### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

企業に勤務して初めの1年は挑戦的なテーマに取り組んでいたこともあり，なかなか結果が出ませんでした。そんな時，博士課程在籍時に経験した「どんなに上手くいかないことでも前向きに，何よりもサボらず取り組んでいればいつかきっと状況は好転する」ということを信じ，研究を進めました。その困難な状況を耐えたおかげで興味深い結果が得られ，現在論文を作成しています。

#### ◆仕事のプロになるコツ

責任感を持つことに尽きます。妥協を許さないことも必要です。

#### ◆博士力，どこで発揮していますか？

博士課程の研究をとおり，「あらゆる研究・事象に失敗はない」と考えるようになりました。すべての結果が次につながります。ネガティブな結果ですら別の視点で考えることで新しい何かが発見できるのでは？と考えるようになりました。

### 「人生について」

#### ◆何のために働くのですか？

自分の研究成果を社会に役立たせるため，1人でも優秀

な人材を育成し社会に送り出すため、何よりも家族のため。

#### ◆ワークライフバランスで工夫していること

自宅では大学運営に関わる仕事は一切しない（帰宅後に仕事のメールを送らない）。公私混同は絶対にしない！自宅では家族との時間を第一に考えています。

#### ◆将来の展望

現在研究している成果をもとに、さまざまな分野で利用・展開できるような技術を創りたい。できる限り実験台の

前に立ち、第一線の研究者として現場にいたい。

### 「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること  
いろんな国に行き、色んな環境に接し、自分とは異なる価値観の方と交流を持つことで、自分の価値観をもっと広げておけばよかったと思っています。

連絡先 E-mail: kajiura@fc.ritsumei.ac.jp

## Interview ②

大阪大学産業科学研究所

曾宮 正晴



出身大学・卒業年度：名古屋大学大学院生命農学研究科博士後期課程・2015年度修了

博士論文タイトル：バイオナノカプセル-リポソーム複合体によるヒト肝臓細胞特異的細胞質内siRNA送達法の開発

### 「現在の仕事について」

#### ◆担当職務

大阪大学産業科学研究所で、助教として勤務しています。自分自身の研究テーマを進めている他、大学院生の研究・教育などにも関わっています。所属が大学の附置研究所なので、講義を担当する機会は年に数回程度と少なく、比較的研究に打ち込める環境です。

#### ◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

名古屋大学大学院の博士課程修了後、国立がん研究センター研究所で、1年ほどポスドクをしていました。現在の研究にもつながる、細胞外小胞エクソソームを利用したドラッグデリバリーシステムの研究を行っていました。

#### ◆そこでのやりがい

がんを専門とする研究所で、病院が隣接した環境だったので、常に患者さんやがん専門医の方々を目にしていました。研究に対して、責任や、やりがいを強く感じる環境でした。

#### ◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

産業科学研究所は、さまざまな研究分野の専門家が集まっている理工系の研究所です。材料、ナノテク、有機化学、量子物理や人工知能の研究をやっている研究者が身近（隣のラボ）にいるので、とても刺激的です。

#### ◆現在の就職を決めた理由

大学院時代の指導教員であり、現在の上司でもある大阪大学産業科学研究所の黒田俊一教授に声をかけていただき、助教に採用していただきました。

#### ◆将来設計（描けるキャリアパス）

大学で教員として、ステップアップしていきたいと思っています。年単位での海外留学は一度体験したいと思っています。研究成果を基にした起業にも興味があります。

#### ◆挑戦したいと思っていること

これまでの常識を覆すような、大きなインパクトを残せる研究がしたいと常々思っています。

#### ◆社会人として一番感動したこと

指導している学生が成長しているのを傍で見られるのは、とても貴重な経験だと思います。

#### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

あまり思い悩まない性格だと思うので、苦労している気があまりしません。細かいことにとらわれず、ストレスを溜めないことが重要ではないでしょうか。

#### ◆仕事のプロになるコツ

「一万時間の法則」をご存知でしょうか？一つのことに一万時間打ち込めば、その道のプロになれるという法則

です。コツとは程遠いかもかもしれませんが、興味のあることを諦めず、集中してやり通すことが、仕事のプロになる王道ではないでしょうか。

#### ◆博士力、どこで発揮していますか？

博士課程の間に、研究者として実験をする能力だけでなく、論理的に課題について考える能力や、国際会議で必要な語学力など、さまざまなスキルを学ぶ機会を得られました。現在の仕事になくてはならないスキルです。

### 「人生について」

#### ◆何のために働くのですか？

小さい頃から、両親に「世のため、人のために働きなさい」と洗脳されて育ったために、今でもそういう風に働きたいなと思っています。

#### ◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

生活に必要なお金と、旅行や趣味に使えるくらいのお金があれば十分かなと思っています。研究者ってあまりお金を稼ぐことに興味がない人が多いのではないのでしょうか。

#### ◆ワークライフバランスで工夫していること

仕事と私生活を完全に区別するのは難しいと思いますが、普段はなるべく生活のリズムが一定になるように心がけています。十分な睡眠と健康的な生活は、創造的な

仕事に不可欠だと思います。休日はなるべく読書や気分転換にあてるようにしています。

#### ◆現在の夢

多くの人をアツと言わせるような研究成果を残したいです。教科書に載るような研究がしたいですね。

#### ◆将来の展望

大学や研究機関で、生命科学の研究を通じた教育に携われれば良いな、と漠然と思っています。

### 「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること  
元経営者であり、現立命館アジア太平洋大学学長の出口治明氏の、「人間を成長させるのは、人、本、旅である」という言葉がすごく好きです。学生時代に、海外含めもっと色々なところへ旅をしておきたかったと思っています。

#### ◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

大学院は、人生をより豊かにするために色々なことが学べる場所だと思います。研究を通して、「知を力にすること」ができる大学院の環境を、存分に活用してほしいです。

---

連絡先 E-mail: msomiya@sanken.osaka-u.ac.jp